

五小の風景 No. 5

五日市小学校長 国政 直文

失敗を乗り越える気力を

長い夏休みが終了し、昨日から学校が始まりましたが、新型インフルエンザの流行が心配です。学校でも手洗い、うがいの徹底を行っていきますが、ご家庭の方でもご協力よろしくお願ひします。

夏休み前に、子ども達に自分の夢を見つけてほしいということをお話しました。その夢はできるだけ大きいほうがいいとも言いました。子ども達には、失敗を恐れることなく自分で決めた夢に向かって取り組んでほしいと願っています。

さて、最近よく思うのは、何かをやる前から失敗したらどうしようかと考え、なかなか自分から進んで行動することができない子どもがだんだん増えてきているのではないかとことです。いろいろと原因はあるのですが、どうしてそういう傾向が強くなってきたのだろうかと考えていた時に、ふと手にした本『『いい言葉は、いい人生をつくる』斎藤茂太 著』にこんなことが書いてありました。少し長くなりますが、引用してみます。

最近の親は、わが子に失敗をさせたくないばかりに、どうも、先回りしすぎる傾向が強いようだ。

子どもが何かしようとして、一瞬ためらったりすると、「ほら、こうやれば大丈夫」とか「次はこうだったでしょう？」などと手や口を出す。ひどい場合には、親が先にやってしまったりする。

失敗したりすれば、「だから、ママのいうとおりにすればよかったのよ」などと子どもの自立を奪い取るようなことを平気で口にする。

人間は、とりわけ子どもは、失敗を繰り返して、その痛みや悔しさから成功への糸口を見つけて成長していくのである。

親が手取り足取り育てるから、社会に出ても何ひとつ自分で判断できない若者が増えてしまうのではないだろうか。

ある会社の幹部の人の話によると、最近の新人は、仕事を与えてもぼんやりしている。「どうしたんだ。早く取りかかってくれ」というと、「どうやったらいいのか、まだ聞いていません」というのだそうだ。これは、教えられたとおりにやっていたら無駄な失敗はしないですむ、という親の教育の結果以外の何もでもないといいたくなる。

すべてが親の責任ではないと思いますが、そういうことはしていないだろうかと自分の行動を振り返る必要はあると思います。私自身も、子どもにできるだけ失敗は経験させたくないという気持ちが強かったように思います。

しかし、学校でも家庭でもこの本に書かれているような行動を私たちがとればとるほど、言われたことしかできない、自分で考えて先を読んだ動き(気づく行動)などができる人が増えてくるのだろうかと思いました。同時に、自分自身が失敗を恐れての指示待ち人間、あるいは言われたことしかできていない人間になっていないだろうか反省してみたいと思いました。

失敗すれば誰だって叱られます。失敗したら叱られるのですから、本人はかなり落ち込んでしまいます。だから、とてもつらい思いをします。つらいけれども、「失敗は成功のもと」といわれるように、成功するには、失敗はつきものです。人は失敗する動物だといわれます。失敗からの方が多くのことを学ぶことができます。その意味からも、子ども達には、失敗を乗り越える気力を養ってもらいたいし、同時に、私達大人も子ども達への接し方をよく考える必要があるように思います。

これからも本校教育へのご理解ご協力よろしくお願ひします。

